

教科の特質に即した

評定の仕方

1 “本質”を見失ってしまった現場

新たな評価方法に関しては、数々の研修会で示される実践例や個々の教師の努力で、ある程度の方向性が見えてきたようである。しかし、こうした実践例の中には、実際性という点で疑問がわいてくるものも少なくない。例えば、授業中にそれを行っているとは思えない評価活動が示されていたり、実行不可能なくらい膨大な量のデータ処理を必要とする方法が示されていたりするものがそれである。

このような実態がある中、授業における評価とはいったい何のために行うのか、私たち教師が行うべき評価とはどのようなものなのかを改めて考える必要がある。

2 妥当性・実際性のない評価計画作成

では、なぜこのような実情があるのだろうか。その最大の原因は評価計画にある。一般に、指導計画は教科書の単元に沿って作られ、評価計画もそれに応じて作られることが多い。しかし、ここに大きな落とし穴がある。その理由は大きく言って次の2点である。

① 教科の特性を無視した評価計画

英語科では、社会科や理科のように単元ごとに学習する内容が変わるということはない。英語科の最大の指導目標は言語技能を高めることにあるが、言語技能は連続したスパイラルな学習によって徐々に高まっていくものである。つまり、言語技能の本当の力は、教え

てからある程度時間がたった時点で総合的に運用させてみて初めてわかる。したがって、評価計画も中・長期的な視点で生徒の力を測定するものにするべきである。

② できないとわかっている評価計画

単元ごとの評価計画には、題材の理解に関するものから言語材料の理解・運用に至るまで、多種多様な評価項目が示されている。これらの評価をすべての生徒について単位時間や単元ごとに行うことは実質的に不可能である。教師はそれを知っていて評価計画を作っており、しかも誰もそれを実行していないという実態がある（注：筆者調査による）。

3 よりよい評価計画の作成と実践

では、これらの問題点を解決できる評価とはどのようなものであろうか。それは、技能ごとに特化した評価である。本校では以前から指導計画も技能ごとに分けたものを作り、実際に指導してきたが、評価計画も今回の評価方法の改訂に合わせて技能ごとのものを整理してみた（表1参照）。

スペースの関係で、個々の評価活動についての説明は参考資料に譲ることとし、ここでは、これらの評価活動を行う際の留意点をまとめて述べることにする。

(1) 評価専用場面の設定

かつて観点別評価が取り入れられた際、授業研究会でチェックマンと化した教師の指導が問題になった。これは、本来なら指導する

英語科での評定の方法

筑波大学附属中学校 肥沼 則明



べき場面で、補助簿へのデータ記録が優先されたことによる。指導の途中で個々の生徒を評価し、それを記録するというのは指導上好ましくない。評価をするのであれば、評価専用場面・活動を独立して設定した方がよい。

(2) 目的に合った評価方法

知識・理解の度合いを測定するならば、定期テストや小テストでできる。もちろん、その場合には、各問いが生徒のどのような力を測定しているのかが明確なものを作成すること、大問毎の得点はその力を代表できるものにするのが大切である。一方、表現力を測定する場合は、書く力はペーパー・テストでできても、話す力は実技テストが必要である。定期テストや学期末、あるいは題材に応じて設定するようにするとよい（表1参照）。

(3) 教師間の実質的な基準調整

評価においては「規準」とともに「基準」も大きな問題である。つまり、評価のカットニング・ポイントをどこに置くかということである。しかし、それ以上に重要なのは、評価する個々の教師の実際の判断ポイントである。特に、観察法による評価を行う場合は、教師によって達成度の判断がまちまちであるから、それを調整しないかぎり、どんなに基準を言葉で表現したとしても妥当性・信頼性のあるデータとはならない。

そこで、本校では2人以上の教師が共通の評価活動を行う際、具体的な事例を使って評価基準の調整を行うようにしている。この作

業は、評価に関するもっとも身近な研修でもある。つまり、同じ評価対象に対して、自分とは異なった観点で評価する教師と議論をすることが、評価技能を高めるのである。

<参考資料>

- 『無責任なテストが落ちこぼれをつくる』若林俊輔・根岸雅史著、大修館書店
- Nory Koinuma's Junior High School English Teaching (<http://village.infoweb.ne.jp/~koinuma>)

表1 本校の3年間の評価計画

		筑波大学附属中学校英語科		
学期	技能	第1学年	第2学年	第3学年
前	知識理解	[定]・文字・英語の音・文字とその読み・音・文を書く・読み・辞書・文法事項（単語文、疑問文、否定文等）	[定]・語彙・文法事項（不定詞、助動詞等）	[定]・語彙・文法事項（受け身、現在完了等）
	聞くこと	[定]・音の識別・内容理解	[定]・音の識別・内容理解	[定]・音の識別・内容理解
	読むこと	[定]・内容理解（春・夏休みの課題）	[定]・内容理解（春・夏休みの課題、初見の文章）	[定]・内容理解（春・夏休みの課題、初見の文章）
期	書くこと	[定]・Listen & Write 場面作文 エッセイ作文	[作]・自己紹介の原稿 [定]・Listen & Write 場面作文 エッセイ作文	[作]・夏休みの思い出 [定]・Listen & Write 場面作文 エッセイ作文
	話すこと	[実]・リーディング・ショー スピーチ（自己紹介等）	[実]・リーディング・ショー 面接テスト	[実]・リーディング・ショー 面接テスト (TT)
	知識理解	[定]・語彙・文法事項（現在進行形、過去形等）	[定]・語彙・文法事項（比較、現在完了等）	[定]・語彙・文法事項（分詞による修飾、関係代名詞等）
後	聞くこと	[定]・音の識別・内容理解	[定]・音の識別・内容理解	[定]・音の識別・内容理解
	読むこと	[定]・内容理解（初見の文章）	[定]・内容理解（初見の文章）	[定]・内容理解（初見の文章）
	書くこと	[定]・Listen & Write 場面作文 エッセイ作文	[定]・Listen & Write 場面作文 エッセイ作文	[作]・S&Tの原稿 [定]・Listen & Write 場面作文 エッセイ作文
期	話すこと	[実]・What Am I?発表 面接テスト (TT) リーディング・ショー	[実]・Show and Tell発表 面接テスト (TT) リーディング・ショー	[実]・面接テスト リーディング・ショー

※凡例 [定]…定期テストで評価する [実]…実技テストで評価する [作]…提出作品で評価する
 ※備考 ・コミュニケーションへの関心・意欲・態度は日常の観察により評価する。
 ・1年生における理解の能力は、「聞くこと」を中心として育成しており、内容を読みとめるという意味での「読むこと」は定期考査の評価項目としては設定していない。